

1964年 9月 19日

親愛なるバーナード

手紙をありがとう。 タイさんが何を言っているのか分かって嬉しく思います。 彼が日本へ帰国するというので、私達はほっとしています。

私達の間にはいつも緊張感が存在していました。 アンと私は何時も社会に対して無政府主義的な態度を取って来ましたが、タイさんは基本的には、権威に対して従順な態度を取って来ました。 多分彼はアメリカの自力本願的な社会に生きる難しさを感じているのだと思います。

しかし、これは彼の帰国の原因ではありません。 私達はお互いの相違点を十分に認めながら、それでもともに結構具合良く働いて来ました。 彼がアメリカを去らねばならなくなった理由は、アンと私の全く関わり知らぬ事で、此処庵の外部より情報が入って来たものです。 このため私は、宋淵老師と相談するため特に日本へ行って来ました。

私達は引き続き集会を開いています。 タイさんの離脱と共に去った会員の埋め合わせは順調に増加しています。 去って行った人びとに対してタイさんが何を語ったか私は知りません。 事実私はこの事をあまり気にしては居りません。 仏法が人格に現れて来ると、個々の本体はどうでも良くなるものです。

優れたスフィ汎神論者に会われたようで、喜んでいます。 興味ある出来事が起りそうな予感がします。 私自身の将来に対する計画は、是等の移り変わりと共に、まだ空中を漂っている状態です。

マーガレットには、フィラデルフィアに内縁の夫君がいます。 彼女がこの地に落ち着けぬ道理です。 私達は将来の為に参考資料を集め、重要項目を書き上げたいと思っています。 最近、コーネルを卒業して当所へやって来たマーティン セルドマンがこれに当たっています。 彼の独創により完全に始めから計画を立てると言うものです。 彼は柴山老師の講義、禪の名詩選に関する事で彼に手紙を書きました。 柴山老師は手紙で返答を下さり、緒方氏を紹介、緒方氏は援助を約束しました。 というわけで、彼は今、緒方氏の寺に滞在しています。 彼は妙心寺の接心にも参加したそうです。 阿部氏の援助も受けているようです。 春の接心にもまだ決定していませんが、参加する予定との事です。 彼は私達の会議に立寄り、私達と知己を得たものですが、その時彼はまだ、箸さえ持てませんでした。 彼は感受性、思考力、勇気を縦横に使いながら前進していますが — 何しろ彼は未だ若い、20歳です。 何か成し遂げる男に成長するかもしれません。

会議は結構具合良く進展したと思います。何時もより幾らか組織的で、輪が空回りするような無駄な進行は幾らか少なかったように思います。今年の早期に見られたようなブック、スズキ、ニキラナンダのような、本格的なスター人物はおりません。此処庵は会議の出席者で満員でした。

そう、確かにカプロウは、今や、和尚さんになりました。彼の将来に関する計画は知りません。